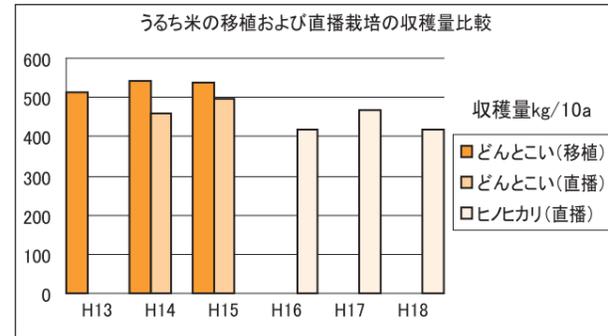


新しい農法へ

組合の特徴的な取り組みといえ、新しい農法「直播」による稲作をいち早く取り入れた点です。今から六年前、組合ではそれまでの農法を大きく変化させました。一番変化したのは「種の播き方」。それまでの農法では、種は育苗箱に播き、苗床で十数センチまで育った苗を、田植え機を使って植えるという、ごく一般的な移植農法でした。

一方、組合で取り入れた直播農法では、種籾を水を張った田に直接播いていくのです。(湛水直播農法。詳しい手順は、下の「湛水直播農法」を参照。)

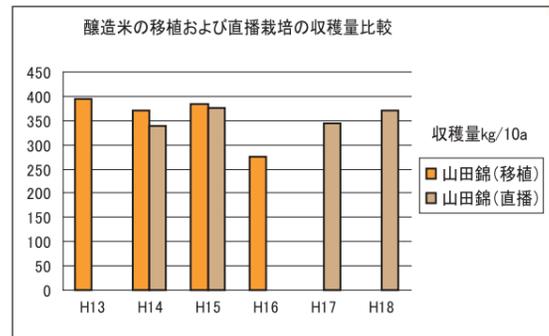
- ・この農法を利用するメリットは苗代や苗床の準備をしなくてよい
- ・苗が育つ間の世話(手間)が省ける
- ・ほとんどが機械作業のため、操作手法や手順を覚えれば誰にでもできる
- ・少人数で作業ができる
- ・主に労働力の軽減が挙げられますが、最初から上手くいったわけではありませんでした。



新農法との戦い

湛水直播農法のデメリット

平成十四年から、試験栽培として田一枚分に直播農法を取り入れ、各品種の栽培を開始しました。最初とあって、収穫量も少なく問題も多々ありましたが、技術を習得することで将来的に栽培可能と判断しました。それから徐々に栽培面積を増やしていき、二年前に地区内全面積直播栽培に至りました。その間にも



例えば、除草剤の効果を上げるため、種播きをするときに、できるだけ田を水平にし、水が均等にいきわたるようにしたり、収穫量の回復に向けて有機栽培に取り組むため、酪農家と提携し乾燥堆肥を使用しています。(耕畜連携) 種播機の不具合については、専門的な技術が必要のため、開発元に、より一層の改良を依頼しましたが、よい返事がもらえませんでした。そこで組合では社兵庫工業会に掛け合い、組合の種播機の改良を取り上げてもらえることになりました。組合ではその成果に大きな期待を寄せています。

収穫量回復を目指して

こうした努力を重ね、全面積直播栽培に移行してから三年目の今年、直播作業がようやく軌道にのり、当初に比べれば種が綺麗に播けるようになってきました。また、収穫量も年を重ねることに増えてきており、今後の更なる直播栽培の改良によって、移植栽培と同等の収穫量や品質を目指しています。

組合員に聞きました



福吉地区営農組合長 小林 峯雄さん

営農組合を設立した当初、各方面から「十年もつかどうか」と言われていましたが、その組合も今年で二十年を迎えました。ここまで続いてきたのは、やはり組合を必要とする人々がいて力を合わせてきたからだと思っています。

また、全面積直播栽培の地域は少ないようで、上郡町や佐賀県などの営農組合、農協関係者などから多くの視察を受けており、組合が取り組んできたことが間違っていないのだと自信につながっています。

直播栽培は、楽に作業ができる一方で、収穫量が減少するというデメリットも持っています。今後は、直播農法の改良、組合組織の国の政策への対応などの努力を続けることで、稲作だけでなくむらの自然を守り、「ふるさと」を守っていききたいと思っています。



福吉地区営農組合員 小林 健児さん

私が小学生の頃は、家族総出で苗を作り、田植え時には自分達の手で植えていました。そこまてかかる日数はとても長く、田植えの後は体が痛かったことを覚えています。

最近では近代化が進み、機械も大型化して効率がすくよくよなっていると思いますが、水入れや除草作業は昔ながらの人力でしかできないので、先が思いやられます。楽になった部分は多々ありますが、将来、年齢が上がっていくにつれ、体力的な問題が出てくるでしょう。一方、水入れ除草以外の作業は組合として予定が決まっているので、助かります。今後の農業については、担い手の確保ができれば続けていけると思います。水入れや除草などの昔ながらの作業を変えようと思うと大変な設備投資が必要ですが、検討課題でもありません。

また、昨年度から組合の法人化に取り組んでおり、次世代につながる組合を作れるよう、頑張っています。

挑戦し続ける

現在、組合では「より安全で安心な食物である米作り」を目標に、乾燥堆肥の継続投入による有機栽培への移行と、直播栽培において最大の課題である除草剤の削減に努めています。

「全農家が農家として損をしない農業を」この思いが、村全体で新しい農法に挑戦する契機となりました。そしてこの取り組みが、農業の重労働を嫌い、農業から離れかけていた地区の若い世代にも受け入れられ、ひいてはむらを守るための、大きな転換期となりました。

未来の加東へ

福吉地区以外でも、農業や地域産業、伝統文化など、それぞれの地域に受け継がれてきた技術や、創意と工夫で編み出された手法によって、「よりよい未来になるように」と活発な地域づくりが行われています。

その取り組みの具体例として、福吉地区の農業はひとつの実を結んだように感じました。それぞれの地域で、小さな花が咲き、実をつけ、それを受け継いでいくことによって、やがて市全体が、豊かな実りに満ちた、さらにパワーあふれるまちへと向かうことを願っています。

湛水直播農法とは?

種籾を酸素供給剤(カルパー)と殺虫剤でコーティングし、水を張った田に直接種籾を播く方法です。



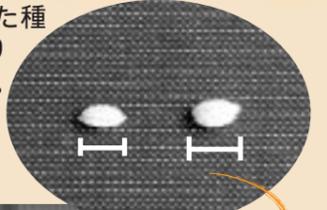
桶状の回転部分

まず、種籾は水付けを行い発芽させ、コーティング前日に水切りを行う。コーティングの翌日に、代掻きを行い、田の高低差がなくなるようにしておく。



カルパー専用機に、種籾とカルパー、殺虫剤、墨汁を混ぜた水(鳥から種を守るため)をセットし、スイッチON!。大きな桶状の部分(右写真参照)が回転しコンパイトウを作る要領でコーティングされていく。

コーティングが終わった種籾は、コーティング前よりも多少サイズが大きくなる。コーティング後は風通しの良いところで広げて、しっかり乾燥させる。



右: コーティング後は色がグレーになる
左: コーティング前は綺麗な黄金色



代掻き(写真左奥)が終わったところから専用の種播機を使って、種籾を直接播いていく(同右手前)。しっかりと種が落ちるように気を配りながら田を走る。種播機が通った後にしっかりと筋がついていれば成功。